

三月五日なり、競馬あり」

### 月輪寺旧跡

〔同所の北田圃の字にあり。前に書したる月林寺同寺なるか、証いまだ考へず。又葛野郡愛宕山あたごの内  
に同名あり〕

小野宮大まうち君の月輪寺桜の花見侍しに

家 集 山桜ちよのはるぐことしより色咲まされ君が見にこば 能 宣

小野宮おほいまうち君月輪寺の花見侍りける日よめる

新 古 たが為にあすは残さん山桜こぼれて匂へけふの形見に 元 輔

清慎公月輪寺の花見侍ける時読侍ける

続 古 山桜あくまで色をみつるかな花ちるべくも風ふかぬ世に 兼 盛

### 雲母坂

〔鷺杜さぎのもりの北にあり、京師けいしより比叡山ひえい中堂及び四明嶽に至るの一路なり、此道嶮岨なれども捷道なり。此坂常  
に雲を生ずるゆへ雲母坂きらくもがといふ〕

不動堂ふどうだう〔同所坂の左にあり。額、雲母寺うんぼじ、石川丈山の筆。本尊不動明王でんけうだいし、伝教大師の作、立像八尺許。叡嶽に属す〕

不動瀧 〔本堂の東にあり〕水飲 〔雲母坂にあり、路の傍に岩あり、清泉涌出する事増減なし、靈泉なり。能因歌枕のういんに云、水のみ、山城〕

且 見 恋

散 木 ひえの山その大嶽はかくれねど猶水のみは流れてぞ経る

俊

頼

蛇池 〔雲母坂きらい、くのかを登れば路の左にあり、今涸て池とも見へず、窪所なり〕

〔太平記云、さしも嶮しき雲母坂きらい、くのか、蛇池を弓手に見なして大嶽までぞ攻のぼりける〕

音羽谷おとは だに 〔雲母寺うんぼじの東南にあり。上古瀧ありて即音羽瀧と称す、年経て山崩れ溪埋れて、今微水所々に別れ流る〕

〔うつぼ物語云、千景のおと、いものさうしをしてへ給ふ程に、山里の心ぼそげなる殿まうけ給てぞ住給ける。其わたりはひえ坂本小野さかもしをののわたり、音羽川おとは がはちかくて瀧の音水の声あはれに聞ゆる所なり。下略〕

〔古今抄云、白川音羽瀧しらかは おとはのたきは雲母坂きらい、くのかの上、水呑峠の地藏堂のわきより流る、瀧なり。八雲御抄云、音羽瀧おとはのたきは山城ひえの山の麓なり〕

ひえの山なる音羽瀧おとはのたきを見てよめる

古今 おち瀧川たきの水上年つもり老にけらしな黒き筋なし

忠 岑

権中納言敦忠山莊ごんちゆうなごんあつたゞきやう〔此辺にありしと見へたり、拾遺集に出〕

権中納言敦忠が西坂本の山庄の瀧の岩に書付ける

拾遺 音羽川せきいれておとす瀧津せに人の心の見へずも有哉

躬 恒

林丘寺りんきやうじ〔雲母坂の下にあり。本尊聖観音、立像二尺余。初めは江川大津かうしやうおほつにあり。額、後水尾院宸翰ごみづのを〕

後水尾院宸影ごみづのを〔書図、同宮妙法院堯恕法親王めうはふあんげうじよの御筆。左の脇壇に安置す〕

法皇の御製

賛和歌 よしや身は深山がくれのくち木かき扱も心の花しにほはゞ

開山照山元瑤せうさんげんえうぜんに禪尼公〔後水尾院の姫宮なり。禅法に帰し給ひ、此地を闢て禅刹とし給ふ。峨山稿云、林丘寺光子内親

王、法諱は元瑤、自法皇寶天之後ラ薙髮シテ為ニ■ト薊尼ト、純修ラ淨業ヲ。

林丘寺にまいりて御堂の前なる瀧を見て

山水のすむやいかなるみるからに心をあらふ瀧津岩なみ

中院 通 茂

修学寺行宮しゅがくじの〔後水尾帝御在世の御時行宮し給ふ、奇景典麗筆墨に尽しがたし〕

清泉 〔堂前の東にあり。開關の後自然と涌出す、黄檗高泉の記あり〕

修学寺八景しゅがくじ 〔隣雲夜雨、 茅檐秋月、 村路晴嵐、 修学晚鐘、

遠岫帰樵、 松崎夕照、 叡峯暮雪、 平田落雁〕